

令和5年度「知事と市町長の円卓対話」（南伊勢町）概要

- 1 対話市町 南伊勢町（南伊勢町長 ^{うえむら} 上村 ^{ひさひと} 久仁）
- 2 対話日時 令和6年1月17日（水）13時10分から13時40分
- 3 対話場所 ふれあいセンターなんとう 多目的ホール
（度会郡南伊勢町村山1132-1）
- 4 視察場所 たちばな展望台 天空のブランコ
- 5 対話項目
 - （1）買い物不便・困難者対策について
 - （2）地域医療の充実について
 - （3）水産業の担い手育成及び及び豊かな海づくりについて

6 対話概要

対話項目（1）買い物不便・困難者対策について

（町長）

一つ目の買い物不便・困難者対策について、以前38集落回らせていただいて、生の声を聞かせていただきますと、やはり買い物が大変であると多くの方から話を伺いました。いろんなことをしていかなければならない中、今一番懸念していることは、今まであった店が無くなってしまふ、このことは（過疎地域に限った話ではなく）多くの地域で起こってきております。また、営業所が無くなってしまふことも起きております。

しかしながら、町として、行政として、手を打たなければならないので、皆さんの意見も踏まえながら、今日、たくさん来ていただいております議員の皆さんにも助言をいただきながら、町をどうやっていくのかを取り組んでいるところでございます。

現状といたしましては、やはり地域の身近な食料品や日用品の店が閉まってしまう状況にあります。南伊勢町の存続に向けて、どのような手を打たないといけないかを考えながら、真剣に、一層、もう一步踏み込んだことやっていかなければならないと思っております。

そこで、やはり買い物に行くのに移動手段が大変という声があるので、いろんな模索をしながら、町営バス、デマンドバス、いろんなバスを地域へ走らせながら、そして民間の方の力を貸していただいて、今、進めているところでございます。

なかなか、それだけではどうかというところもありますので、今後、考えていかなければいけないと思っております。やはり、買い物に行けない人をサポートしていくのには何が必要かと考えたときに、人件費やアクセスの問題もそうですが、買い物に行けない人をどうしていくかも考えながら進んでいかなければいけないと思っております。

国の様々な支援では、過疎対策とか雇用対策、商業活性化など、いろんな支援の仕組みはありますが、やはりこれをどうやって止めるかと言ったときに、人件費に関する補助はないのです。今この辺をしっかりと、国、県と話し合っただけ進めていかなければいけないと思っておりますので、人口減少とかありますけれども、1つ1つにとらわれるのではなく、何をやったら、本当に南伊勢町として、例えば何年先に人口が8000人に減りますとなったときに、どうやって9000人で収めるか、どうやって1万人に収めるかという施策をやっていかなければいけないと思っておりますので、その辺の支援の強化に向けて、県下共通の支援策の検討や国への働きかけなど協力を願いたいと思っておりますので、知事の見解をよろしくお願いいたします。

(知事)

これは南伊勢町だけの問題ではなく、県下全域で、交通の問題、それから買い物不便の問題があり、実は、三重県だけの問題でもないのです。20年前に、私は中部運輸局で、バス、タクシー、トラックの担当部長をしていました。その時には、同じ問題が常に起きてました。岐阜の山の中でも起きていましたし、愛知県と長野との県境の豊根村でも同じ問題がありました。そのときから、私はずっと35年間、交通の仕事に携わり、この問題いつも向き合っていました。昔の南伊勢町では三重交通のバスが走っていました。私の田舎の亀山でも同様、昔は走っていた三重交通のバスは、今はもう走っていません。ある時期に、コミュニティバスに切り替わり、今はコミュニティバスもない状態となっています。このことは、どこでも同じ状況なんです。南伊勢町は、県と一緒にやって、実証実験をやっていただいています。その結果が出てきて、今後どうしていくかを考えていかなければいけないのです。

難しいのは、ランニングコストで、人件費はなかなか支援してもらえないのです。国からも出ませんし、県からもなかなか出せない。実験の時は出せるが、終わってしまうと、人件費をどうやって捻出するのか一番の問題です。一つのやり方としては、リタイアをされた、60代後半から70代の人に、ボランティア的な取組として携わってもらい方があります。実は、場所場所によってやり方が違うので、どういう方がおられるか、それでどういう方が担われるか、その場所に一番合ったやり方をよく話し合ってから決めていかなければいけません。買い物支援もそう、お店はどんどん無くなっていくが、お店を維持するためにお金をつぎ込むことも出来ない、そんな地区ばかりになってくるわけです。そうすると、スーパーに移動販売車で回ってもらわないといけないが、うまく回っていない場合、支援が必要であれば、どうやって支援を出していくかを考えていかなければいけない。全国でも同じようにうまく回っていない話はあるはずなので、県の方でも議論して、どういうやり方で回っているのか、我々も調べてみようということにしています。調べた結果をお伝えさせていただきたいと思っておりますので、南伊勢町さんと一緒に考えていきたいと思っております。

(町長)

しっかりと南伊勢町で打てる手はしっかり打って、やはり自分ところの町で、どうやって汗をかいていくかも大事ですので、汗もかかずに県や国にお願いするわけにはいきませんので、しっかりと南伊勢町としてやっていきたいと思っております。その辺は、またご尽力賜りますようお願い申し上げます。

対話項目（２）地域医療の充実について

(町長)

地域医療の充実については、町立病院、南島メディカルセンターや個人で開業している医師の力を借りて、安心な医療を進めているところで、今、何を求められてるかということ、病気を治す医療から町民の生活そのものを支える医療に転換していかなければならないと思っております。

基本的な考え方といたしまして、人口減少、高齢化が進む中、医療、介護、予防、生活を包括的にとらえ、必要な人に必要なサービスを適切に提供することが、町の暮らしを安心して支えていくのに重要と思っております。今、町の現状を見ると、地理的に東西にすごく長くて、移動に時間がかかる、移動困難でもあり、その現状も踏まえて、南伊勢町として何ができるのか、移動手段も考えながら進めていこうと思っております。

現在の目標といたしまして、住民に寄り添い、身近で頼りになる医師や外来、入退院への支援、訪問診療、さらに生活の相談までしてくれる現在の体制を維持していきたいと思っております。近い将来を見越して、遠隔医療など、この町に合った医療の可能性を検討していきたいと思っております。そのためには、地域の必要に応じた、かかりつけ医の確保とか、在宅医療の充実など、日々を支える医療が必要になってくると思いますので、医師の派遣の継続をはじめ、国及び県による積極的な支援をお願いしたいと思っております。

(知事)

日々の買い物も、一番大事ですけど、次に同じぐらい大事なのが健康を守ることです。

地域医療の確保は、知事になって最初一番大変だったのがコロナで、県民の命を守らないといけないということで走り回りました。ようやく収まってきましたけれども、大事なものは、病気にならないようにすることで、先ほど町長おっしゃいましたけれど、予防的な対応が一番大事です。それでもやはり病気にはなるので、そのときにどうやって診療受けられるのか大事です。南伊勢町には、南伊勢病院という立派な病院があります。

三重県だけでなくどこの県も医師不足であり、医師の偏在が問題になっています。街には、医者がいるけれども、なかなか地方には来てくれない。どうやってバランスよくやっていくかが課題ですが、三重県は幸いなことに、医師の育成機

関である三重大があり、県も関係を築いておりますので、何かあったときには三重大に助けをもらうこともあります。また、県独自でも、自治医大卒業医師の派遣は継続していきたいと思っております。

それから、オンライン診療は、コロナの時に一部解禁になったものの、なかなか難しい話はあるのですが、やむを得ない時にはオンライン診療もやってもらわないといけない。また、いかに多くの人に医療を提供していくか取り組んでいかなければいけないことから、オンライン診療を薬の受け取りまでを含めて円滑にやっていけるよう、今、モデル事業に取り組んでおりますので、南伊勢町とも一緒になって進めていきたいと思っております。

(町長)

三重県からは、平成28年度から、毎年3名の医師派遣をいただいております、感謝をしているところです。この人員体制がなければ、当町の地域医療は維持できません。引き続き、しっかりとお願いしたいことと、一方で、当町全体での医療体制を考えると、厳しいことは理解しておりますが、医師派遣の増員もお願いしたいと考えております。県にはぜひとも、医師派遣の継続や拡充をはじめ、積極的な支援をよろしくお願いしたいと思っております。

対話項目(3) 水産業の担い手育成及び豊かな海づくりについて

(町長)

町の基幹産業である一次産業が、稼ぐ力を支える一つの柱となるように取り組んでいきたいと思っております。またその鍵としては、高齢化と後継者担い手不足への対応も非常に大事になってくると思っております。今、漁業従事者についても非常に減少しており、数値で表れているとおり、南伊勢町でも同様にすごく減っていますが、南伊勢町はやはり「水産のまち、海の町」ですので、水産業発展なくして、町の発展がないと私も思っておりますので、しっかり力を入れていきたいと思っております。

そして、今、町で取り組んでいることを紹介させていただきます。一次産業の後継者が少ないということについては、一次産業後継者育成事業として、国には地域おこし協力隊という制度がありますが、その南伊勢町バージョンを実施しています。令和4年度から開始をしており、漁業には対して、14件の認定育成事業者が手を挙げていただいて、9人の採用をしております。参考までに、農業の方についても、3件の認定育成事業者に1人の採用いただきました。この取組を介護福祉にも使えないかということで始めたところ、8件の申請事業者があつて、18人の採用をいただいて、28人の新しい採用をさせていただいております。これらの取組は、小さいときに、爺ちゃんみたいな漁師になりたい、お父さんみたいな漁師になりたい、水産業に携わりたいという子供たちが町に残ってくれる施策として、人口減少対策につなげたいとは思って取り組んでいるところです。ただただ人口減少していくので、

単にこの町に来てくださいというものではなくて、（これらの取組により）この地域に残ってる人の流出も防げるのではないかと考えておりますので、この制度を生かして、議会の皆さんにもすごく協力いただいている事業でもありますので、これをもっと進めていきたいと思っております。

この後の対話でも出てくるフィッシャーマン・ジャパンの関係で、若手が残ってくれる機会が非常に多くなってきていることから、一次産業については、すごく心配していたものの、後継者は少しずつ出来つつあるかなと考えておりますので、今後もしっかりと進めていきたいと思っております。

知事もいつも申されていることで、私もそうですが、汗かかないところには予算は何もつかない。国の予算も県の予算も汗をかくところには予算がついているのかなと思っております。しっかり我々もアピールしていこうと思っております。今回、1日に震災があつて考えさせられることもたくさんあり、何をやったら一番いいのかということを考えて進めていきたいと思っておりますので、県のご指導いただければありがたいと思っております。

（知事）

漁業を継続していく取組、前向きな取組をされておられまして、非常に頭の下がる思いがいたします。

水産業は、今、状況は厳しいです。大きな問題が二つあって、一つは黒潮の蛇行の関係です。これは本県の漁業にとって厳しい。それから、もう一つ大きな問題は人手不足です。これは漁業に限らず、おっしゃられた農業もそうですし、それから製造業もそうです。この問題については、この4月に、県では、人手不足対策を取りまとめする部署を作ります。組織を作ったらすぐに結果が出るわけではないですが、どんなやり方があるかをしっかり考えていこうとしております。漁業もそうですけど、やはり若い人たちに産業を引き継いでもらわないといけないということで、県では、平成24年度から「漁師塾」という取組を支援しています。この2月にも実施されますけど、毎回県外の人、町外の人が4～5人くらい漁業を体験しに来ていただいて、ええなということであれば、ここで仕事していただくこととなります。さらに、来年度から強化をしたいと思っております。

南伊勢町では、移住促進を取り組まれていますけど、移住してもらう人を増やすにはお試しが必要です。引っ越して、違う土地で生活しようと思って、いざ行ってみて、上手くいかなかったら困ります。また、どんな人がいるのかも気になりますし、どんな仕事があるのかも気になるので、例えば、1か月でも住んでもらう。住んでもらえば、たちばな展望台はすごいとこやんかと感じると思っております。実は、そういうお試しをしてもらうことを制度化していこうと、来年度の予算の中で議論しています。市や町と一緒にやっていこうと思っております、おそらく南伊勢町にもあると思っておりますが、漁師などの仕事してもらいながら、地域にある空き家等に住んでもらったときに、住みやすいようにするにはどうやっていくかを考えていきます。

この間、三重県のある養殖を行っているところに行ったときに、東京から来ている 20 代後半の男性と話をしました。「どうしてここへ来たの」と聞いたら、「東京には無い自然があります」と。「来てどう思います」と聞いたら、「いや来てよかったです。こんなに人間らしい生活ができるところはないと思います」と言っていました。

確かにそうです。私も東京に住んでいましたけれども、東京の暮らしとこちらの暮らしと言われたら、生活はこちらの方がいいです。不便もありますが、何を取るかです。そういうふうにもってもらえるようにするのが大事です。県も一緒になって、移住者が増えるようにやっています。いい海を、漁業を次世代につなげることを、これからも一緒になってやっています。

(町長)

令和 7 年の秋に、「全国豊かな海づくり大会」が開催されます。三重県志摩市、南伊勢町で連携し本大会を盛り上げていきたいと思っております。例年、天皇皇后両陛下が御臨席していただいて開催されます。本当に南伊勢町として、これほどありがたいことはないと思っております。宿田曾漁港で、放流事業と海上歓迎パレードが行われます。是非ともこれを機会に、水産業への発展につなげていきたいと思っておりますので、町民の皆さんのお力添えをいただきますよう、よろしく願いいたしたいと思っております。

(知事)

三重県では、41 年ぶりの豊かな海づくり大会になります。おっしゃるように、両陛下がおいでになられると思っております。おいでになられたら、南伊勢町の名前は全国に広がっていきますので、しっかりと頑張っていきます。来年度、今年の 11 月には、1 年前のプレイベントを予定しています。我々も一生懸命力を入れてきますので、ぜひ南伊勢町の皆さんにもご協力よろしく願いいたします。頑張りましょう。